

河原地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日時 平成29年7月13日(木) 19:00~20:15

2 会場 河原町地区公民館

3 出席者 地元出席者 14名
市側出席者 16名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、乾防災調整監、久野地域振興局長、
綱田都市整備部長、保木本中核市推進局次長、渡邊秘書課長

<河原町総合支所>野際支所長、九鬼副支所長(司会)、西山市民福祉課長、
前田産業建設課長、寸村水道局南地域水道事務所長

<事務局>宮崎協働推進課課長補佐、有本協働推進課主事、北村協働推進課
主事

4 地域の重要課題について

1 布袋地内へのスーパーマーケット新規出店に伴う交通安全への配慮について

<地域課題>

ホームセンターのない北側に大型商業施設が新規出店することに伴い、市道布袋砂子線の交通量の増加が予測されるが、道幅を拡大して歩行者用の歩道を設置できないか。

<担当部局の所見等>

【河原町総合支所】

布袋地内のスーパーマーケットの開発は、現在造成工事が進められているところです。

施設出入口に接する市道布袋砂子線は、開店後、現在にも増して交通量が増加することが予測されますが、幅員は6m程度あり車両の通行には支障のないものと考えています。

しかしながら、歩道がない路線ということも現実であり、開店後の歩行者を含めた交通状況を注視しつつ、地域のみなさまにもご意見をいただきながら、必要な安全対策を講じていきたいと考えています。

(総合支所長)

現在、布袋地内においてスーパーマーケット新規出店に伴い、予定地が造成されています。

施設出入口に接する市道布袋砂子線の幅員は6m程度あり、現時点では、車両の通行には支障がないものと考えています。ただ、歩道がありませんので、開店後の歩行者を含めた交通状況を注視しつつ、また、地域の皆様にもご意見をいただきながら、必要な対応



策を講じていきたいと考えています。なお、上手には4月にバス停が開設され、河原第1小学校に通学する布袋や夢ヶ丘の児童が歩行しています。国道53号線には歩道がありますが、市道布袋砂子線と交差する所については気をつける必要があると思っています。

状況を見ながら対応したいと考えています。

(地元意見)

布袋部落長です。地域課題とは少し話がずれますが、スーパーマーケットの進出の問題が起きる前から、部落として市道の構造について要望してきました。川寄りの路肩には何の構造物もなく、土羽で勾配のある法面になっているため、過去には数台の自動車が川に落ちています。また、夢ヶ丘側に長距離トラックの運送会社が2社ありますが、布袋部落地内の県道が狭く大型車がすれ違えないため、すれ違いを避けてこの市道を頻繁に使っています。

それから、市道でありながら、前の畑や小屋の所有者が法面の土羽の草刈りを頻繁にされています。なぜかというと、草があると空き缶やゴミ等を頻繁に捨てられるからです。捨てられたゴミは法面を伝って川にも落ちるので、その方は川の中の藻の掃除も自主的にされています。

過去には浚渫やガードレールの設置を要望してきました。前向きに検討するとの回答もありましたが、今回の地域課題を含め、不法投棄や草刈り、川のゴミなど全てのことを考えると、歩道を設置して段差をつけてほしいです。法面があるので、川から直接壁を上げれば歩道を確保するスペースは十分にあると思います。今後は交通量も増加すると思います。歩行者の安全を考え、併せて環境美化も含めて、前向きに進めてほしいです。

(総合支所産業建設課長)

ガードパイプの設置や停止線の標示については、以前から要望をいただいています。

店舗の南側出入口ができると、国道側から店舗に出入りする自動車の台数が増えるのではないかと想定しています。この市道は国道側との交差部分は幅員が10m程度ありますが、そこから幅員が6m程度になるため、国道側から入ると急に狭くなって事故等の懸念もあります。

店舗の開店に伴い、これまで以上に自動車の交通量が増えることは当然想定していますので、交通量等や歩行者の方の安全確保も検討しながら、歩道等の設置といったことも検討したいと考えています。

また、この路線に限らず、市道等の法面については地域の皆様に草刈り等を実施していただいております。大変ありがたく思います。交通量も多いところですので、店舗が開店すればゴミのポイ捨ての問題もあります。そういった部分についても、併せて検討したいと思います。

(地元意見)

いつ頃開店しますか。

(総合支所長)

開発行為の申請があったようですが、正式には聞いていません。布袋集落では、昨年から頻りに地元説明会が開催されたと聞いています。その時点では2、3年後の開店ではないかと聞いていますが、それよりは早く完成するのではないかとこの情報を得ています。まだ建築確認申請が出ていませんので、現時点でそれ以上のことは分かりません。

(地元意見)

買い物客は、帰りは国道に出たいだろうと思いますが、市道布袋砂子線から国道に出るのは非常に困難です。私達でもハッとすることがあります。

(総合支所産業建設課長)

たしかに、鳥取方面から来た自動車が店舗に入るのは非常に危険だと思います。

現時点では、北側の店舗出入口に鳥取方面からの右折レーンを設置する考えはないようです。また、北側店舗出入口から非常に近い鳥取自動車道鳥取南インターチェンジの出口に信号機があるため、新たに信号機を設置する考えもないようです。

市道布袋砂子線の出入口についても現時点で交通安全対策はありませんが、交通量が増加することが想定されるため、警察に事前相談等をしている状況です。

(地元意見)

恐らく鳥取方面から右折で店舗に進入する自動車が多いと思います。北側出入口周辺は緩いカーブになっていることもあり、店舗に入ろうとする自動車が1台いるだけで、鳥取方面から来る自動車は渋滞するのではないのでしょうか。今からでも想定できます。

ぜひ国土交通省と検討し、右折レーンは設置してほしいです。

(都市整備部長)

店舗ができることにより、交通量や交通動態が変わってきます。交通状況を注視し、警察や公安委員会、所管の国土交通省等とも協議し、地元の皆様にもご相談しながら検討していきたいと思っています。

(地元意見)

北側の出入口を出るとすぐに鳥取自動車道鳥取南インターチェンジとの交差点に信号があるので、布袋地内を通る狭い道路を抜けて県道郡家鹿野気高線を経由して帰ろうとする人がいると思います。そのあたりの安全対策はどう考えていますか。

(総合支所産業建設課長)

布袋地内を抜ける道路は、幅員が3mから4m程度しかありません。地元からも交通量が増大するのではないかといったご意見が出ており、県道側に停止線を設置してはどうか、あるいは歩行者の安全対策としてグリーンベルトを設置してはどうかといったことについて、智頭警察署と検討しているところです。いずれにしても幅員が非常に狭いので、地元の方の安全を考え、事故等がないよう関係機関とともに慎重に対応していきたいと思っています。

2 「アユの町 河原」の再生について

<地域課題>

長く「アユの町」と称してきたが、現在天然の鮎はほとんど生息しておらず、釣り人も離れている。

「アユの町」として誇れるような対策を、市を挙げて取り組んでほしい。

<担当部局の所見等>

【河原町総合支所】

山陰エリアでは、鮎の漁獲量の減少が目立ち始めています。鳥取県では日野川、天神川とともに千代川においても同様の傾向が確認されています。

天然鮎の減少は海の環境の変化やカワウによる食害、病気、河川環境の悪化など、さまざまな要因が考えられますが、はっきりとした原因は解明されていません。

鳥取県栽培漁業センターでは、本年度から放流時期の河川の水温や河床の状況、エサとなる付着藻類の現存量、放流魚の生き残りや移動状況、カワウによる食害実態などを調査しています。

また、河川の生態系を豊かにすることを目的として、県（水産、土木、環境部局）や千代川漁業協同組合、国（国交省）、学識経験者等が参加した「水辺の環境保全協議会」が発足し、鮎等が移動しやすく生息しやすい環境を整備するため、魚道の改善等について関係機関と検討を行うこととしています。

河原町は、古くから「アユの町」として栄えています。夏の恒例行事「あゆ祭」は、今年で39回を数える伝統行事として、毎年盛大に開催されており、本市としても、原因究明や対策の検討について関係機関と連携して対応したいと考えています。

（総合支所長）

鳥取県には千代川、日野川、天神川の3つの河川がありますが、どこも同様に鮎の漁獲量の減少が目立ち始めています。天然鮎の減少は海の水温の変化やカワウによる食害、病気、河川環境の悪化などさまざまな減少要因が考えられますが、今のところはっきりした要因はまだ分かっていません。

鳥取県栽培漁業センターでは、本年度から放流時期の河川の水温や河床の状況、エサとなる藻の量、放流魚の生き残りや移動状況、カワウによる食害実態など調査しています。

また、河川の生態系を豊かにすることを目的として、県と千代川漁業協同組合、国、学識経験者の皆さんが参加する「水辺の環境保全協議会」を立ち上げ、鮎等が移動しやすく生息しやすい環境を整備するため、魚道の改善等について関係機関とともに検討を行う予定としています。

河原町は古くから「アユの町」として栄えています。夏の恒例行事「あゆ祭」も今年で39回目を迎え、伝統行事として毎年盛大に開催しているところです。本市としまして、原因究明や対策の検討について関係機関と連携し対応したいと考えています。長い期間がかかるという思いを持っています。

(地元意見)

私は以前にも、千代川漁業協同組合と行政が協力し、「アユの町の再生」ではなく「復活」をしてほしいとお願いしたことがあります。今回このように地域課題に挙がるということは、私以外にも河原町内の皆さんが関心を持っておられるということだと思いますので、何とか「アユの町」が復活してほしいです。私は農業をしていますが、水田の水路を見ても、ここ2、3年は鮎ばかりでなく魚が1匹もいません。何か大きな原因があると思います。先ほどの回答で水質検査や生態系の調査を実施するとのことでしたが、2、3年前からこのような現象が出てきているのだから、ぜひ取り組んでほしいです。なお、朝から日没までの調査では恐らく実態は掴めないと思いますし、ある地点から下流がこのような実態だということを念頭に置いて調査してください。八東川と智頭川が合流しています。八東川には何らかの魚がいますが、智頭川にはいないようです。ある企業の影響ではないかと思えます。鳥取市の水源は叶にあるので、そうなれば魚ばかりではなく鳥取市全体の水源や人の健康問題にも関わってくる問題ではないかと思えます。

「アユの町の復活」は、本当に切実な問題だと思います。

(深澤市長)

以前と比較して環境が変わってきているとのご意見だと思います。

かつては、120tの漁獲がありました。今は約10tと1/10まで減っており、私も何年前から非常に懸念しています。関係機関等とは、「魚道の整備等も必要ではないか」、あるいは「海での生息の期間中の海の環境変化も影響しているのではないか」などいろいろ考えるのですが、千代川水系だけではなく県内の各水系で同様に鮎の漁獲量が減少しているようです。その他にも要因があるのではないかとのご意見ですので、関係機関と連携しながらさまざまな調査を実施し、結果を基に、復活に向けできる限りの対策は講じていかなければいけないと思えます。

また、先ほどもご意見がありましたが、鳥取市の水源は千代川の伏流水ですので、水質の保全等に今後もしっかりと取り組んでいかなければなりません。これは鮎だけの問題ではなく、環境保全に帰着すると思えます。そういった観点からも、この問題をしっかり考えていかなければならないと思っています。

(地元意見)

私は毎日、出合橋の下に鮎を求めています。だから、川の状態が一番よく分かっているつもりです。魚道がどうか、河口のカタクチイワシが食べるという問題ではないのです。

地域課題では「アユの町 河原の再生」となっていますが、川には鮎以外の魚もいないのだから、現状のままでは残念ながら再生はできません。漁協はその理由を言えないと思います。漁協は補償金をもらっているじゃないですか。だから声を上げて言えないのですよ。そのことも先日知りました。

私は日野川にも行きます。島根県の高津川にも広島県の太田川にも行きます。ですが、こんなに酷くはありません。高津川では一度、ヒ素汚染が大変問題になりました。しかし、今は少しずつ良くなってきていると私も感じています。

もう「アユの町 河原」ではないのですよ。それは過去のことなのです。昨年、円通寺の魚道を直すとのことで見に行きましたが、あれでは魚道にはなりません。多額の費用をかけて直すのなら、もう少し魚の気持ちを考えて魚道を作らなければ、あれでは天然の鮎は遡上できないですよ。今年も魚道を直すとのことですが、円通寺の所に、西側にまっすぐ魚道を作るのが一番よいと思います。円通寺の魚道を直すには、それしか方法はありません。

また、河川工事をしたら元に戻さなければ、どんどん浅くなって楽に対岸に渡れてしまいます。魚は深い所や浅瀬、流れのきつい所や緩い所を泳ぐことで、成長して遡上していくのです。工事することで棲めない川にしているのですよ。

「アユの町 河原」としてもう一度復活するには、根本から改善しなければ鮎は戻ってきません。鮎やその他の魚が育たない原因は水質です。早急に調査してはっきりさせなければいけないと思います。

「アユの町」でないのなら、「あゆ祭」をしても意味がありません。そこで獲れた鮎を皆さんに食べてもらうのが「あゆ祭」ではないのですか。養殖の鮎を買ってきて、いかにも千代川で獲れたようにして提供するのはいかがなものかと思います。私は食べる気がしません。

とにかく、用瀬地区の下手を調査することです。降雨時と夜中に徹底的に調査すれば、原因が何か分かると思います。

(深澤市長)

いろいろなご意見をいただきました。

私も先ほど海の話をしました。私は海の近くに住んでいてそのように感じたため、お話ししたものであり、いろいろな要因があると思います。国、県と関係者の皆さんで調査を実施していこうとされています。一挙にかつてのような漁獲量に戻ることは難しいですが、いろいろなことを考えて行っておられます。本日いただいたご意見はご意見として承りたいと思いますし、魚道の整備等についても、貴重なご意見として承ります。

(地元意見)

私も、年間で約60日以上は鮎釣りに出かけていますが、今年もしっかり釣ってはいません。ただ、この河川で言うと、八東水系である若桜町では、鮎は死なずに我々を楽しませてくれています。そして、八東町の中流域から下手にはいません。私は、解禁日に袋川の一等地で釣りをしていましたが、7人が川に入って1匹しか釣れませんでした。実際に、ここ近年は冷水病など病気もありました。冷水病の時には、たしかに多くの鮎が死んでいるのを見ました。しかし、今回は冷水病やカワウが原因とは思いません。鮎の死骸がありません。カワウが食べたとしても、せいぜい1羽が3kg程度のものだと思います。潜って食べるとして、全滅させるほど食べないと思います。

だから、源流の若桜町の辺りではしっかりと生きているのに、中流域以降がこういう状態だということは、先ほど発言があったように水質に問題があるのではないかと思います。

まずはそのあたりを調べるのが先決だと思います。

6 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

まず初めに市長にお礼を言いたいです。市道の修繕要望をしましたが、平成29年度に入って修繕がほぼ完了し、大変喜んでます。通行する皆さんも良くなったと感じておられると思います。ありがとうございました。

（地元意見）

河原町内の小学校の統廃合についてどう考えていますか。

小学校の近くを通ると校庭で運動会の練習をしているのを見ますが、30人いるかいないかの学校なのに、校舎は立派で耐震化もされています。耐震化しても児童が30人なら、むしろ統合してまとまった方が子どものためには良いのではないのでしょうか。学校が統合しないのは親のエゴイズムで、自分の地域から小学校がなくなるのが嫌だと考えていることが、統合しない理由の大半ではないのでしょうか。

（深澤市長）

学校の統廃合は非常に難しい問題であり、慎重に進めていかなければならないと思います。地域にそれぞれいろいろなお考えがありますし、保護者の皆さんにもいろいろなお考えがあると思います。小規模であってもそちらの方がよいというお考えがある一方で、子ども達に集団生活やいろいろな経験をさせていくために、少人数は良くないのではないかとといったお考えもあります。

将来を担っていく子ども達にどのような教育を考えていくべきかといったことを中心に、しっかり考えていくべき問題だと思っています。小学校や中学校をどのように考えていくのかについては、「統合ありき」ではなく、あるいは「小規模であってもこのまま存続させることを前提とする」ということでもなく、保護者の皆さんや地域の皆様と市教育委員会が、いろいろなご意見をいただきながらしっかりと話し合った上で、その在り方を考えていくべき問題ではないかと思っています。

（地元意見）

河原町は、各小学校区に保育園があるにもかかわらず、わざわざ幼稚園を造って年長児を集めています。そして再びバラバラにしてそれぞれの小学校に通わせ、さらに再び中学校で町内全体が集まるという矛盾したことが行われています。

社会に出る子どもを育てるには、切磋琢磨し、競争しながら自分を磨くことが必要なのに、なぜ幼い時に1年だけ集め、また小学校で少人数の教育をするのでしょうか。

（深澤市長）

この問題は地域のいろいろなお考えや思いがあるため、そのあたりのご意見を多くの皆様からしっかりと伺いながら判断していかなければいけないと思います。

1学年の児童数が2、3人の場合、6年間そのような状況でよいのかというご意見もたしかにあると思います。統合ありきではありませんが、少子化が進行している中で、将来を担っていく子ども達のために、どういった選択が必要なのかを考えて判断していかなければ

ればいけないと思います。

さまざまな意見をお寄せいただきたいと思います。

(地元意見)

高度成長期に建設された公共施設が非常に目につきます。一例を言うと、旧河原幼稚園はよい建物がよい場所に建っているのに、もう全く使われていない状態です。

河原町総合支所第二庁舎なども不用財産だと思います。幼稚園に限らず、市の不用財産の今後の活用について、どう考えていますか。

(深澤市長)

高度成長期の日本が右肩上がりの時代には、地方においてもさまざまな公共施設が建設された時代もありました。それらの施設はいずれも年数を重ねて老朽化が進み、改修、場合によっては建て替え等が必要となる時期を迎えつつあります。

本市では、数年前に調査を実施しました。本市内には、小学校、中学校を含めて1,001の公共施設があり、延床面積は全て合計すると901,632m²です。これを本市の人口で割ると、一人当たり4.65m²になります。全国の自治体の平均が3.42m²ですので、本市は全国的には公共施設が多いと言えると思います。大まかな計算になりますが、将来的には延床面積で29%、約3割を減らさなければ、かなり苦しくなると計算はしています。ただ、これは全体の話ですので、個別には必要な施設なのだから残していくべきだというご意見の方もおられると思います。

例えば3つある施設を2つにしていく、あるいは違う目的の施設も複合化し1つにするなどしながら、公共施設の更新問題に取り組んでいかなければならないと思っています。

これは、何よりも市民の皆様のご理解をいただきながら、一緒になって進めていく課題ですので、そのあたりもぜひご理解いただきたいと思います。我々も、将来を見据えて一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

(総合支所長)

旧河原幼稚園の施設は、現在、すぺーすC o m o d o (コモド) 保育園を運営している(一社)地域サポートネットワークととりに貸し付けを行っており、C o m o d o 第2園舎「うさぎの里」を運営されています。

総合支所庁舎については、かなり老朽化していて耐震化もされていないため、第2庁舎を若干増築し、2、3年後にはそちらに移動する計画を立てています。

(地元意見)

私は袋河原の部落長をしています。袋河原部落内には、3本の支川が入っています。農業用水と言ったほうがよいと思います。そこへの不法投棄が非常に多いです。そこで袋河原部落では、ゴミを流さないための対応として各支川の終末に鉄柵を設置し、部落執行部が処理しています。併せて、啓発看板を4か所に設置しました。しかし、一向に効果が見えません。何かよい方法がないかと、総合支所に対して「各部落の河川の終末に鉄柵を設置すれば、どこでゴミが投棄されるかはつきり見える」と話したこともあります。

啓発以外にも何かよい対応方法がないでしょうか。

(深澤市長)

不法投棄は、全市的に問題になっている状況もあり、捨てられやすい箇所には監視カメラを設置しています。不法投棄は犯罪ですので、ゴミを捨てている、あるいは捨てられてしまっている状況等があれば、総合支所市民福祉課か本庁舎生活環境課に一報をいただければ、調査も実施しています。何か動きがあれば情報をお寄せいただきたいと思います。

看板等での啓発も難しい面がありますが、やはり継続した取り組みによって防止に繋がると思っていますので、引き続きご協力をお願いします。

(地元意見)

出合橋のたもとにある袋河原の広場は、犬のフンが多いです。犬の散歩をする人も、フンの始末をするような恰好はして来られるのですが、やはり次の日には必ずフンが残っています。なるべくなら犬の散歩は遠慮してほしいと思います。

また、私達もきれいに使いたいからポイ捨てをしないようにしていますが、私達が帰った後に誰か来てポイ捨てしているという状況が目立ってきました。とにかく、草が生えると橋のたもとへのポイ捨てが多くなります。

(深澤市長)

私も実態が十分に分かっていないかもしれませんが、やはりそれぞれの皆さんのマナーに期待しなければならないのではないかと思います。また、そういう状況があれば、地域内で指摘していただくことも必要ではないかと思います。啓発看板等を立てていくことも行われていますが、お互いに環境美化に協力していく気運を高めていくしかないのではないかと思います。

繰り返しになりますが、ポイ捨て等の実態等があれば、総合支所市民福祉課か本庁舎生活環境課にご一報をいただければと思います。

(総合支所市民福祉課長)

本市では、地区の方に不法投棄監視員をお願いしています。河原地区には5名の不法投棄監視員がおられ、いろいろ情報を入れていただいています。それ以外の物については市民福祉課に連絡いただければ、場所によっては関係課と協力もしながら対応したいと思います。

(地元意見)

私達は不法投棄された後のことしか分からないので、不法投棄をされている状況を連絡することは全くできないと思います。

過去の例では、先ほど袋河原区長が発言されたように、河川への不法投棄が多いです。なおかつ、市の指定ゴミ袋に入って流れてくるのです。恐らく、わざわざ集落がない所まで行って川に捨てていると思います。

布袋工業団地の造成に伴って市と協議し、新しく工業団地に流れる川ができました。そ

の川が布袋集落内を流れています。鯉の飼育や冬場の除雪のためにも水量をゼロにするわけにはいかないので、大井出川から布袋集落に入る水門の調整をずっとしていたのですが、狭くすると吸い込みの力が強く、ほとんど毎日ゴミで詰まりました。原因も分からずいきなり水路がストンと落ちてしまうので、毎日寒い中、大井出川に胸まである長靴を履いて入り、ゴミを揚げていました。水門を開ければ、集落中にゴミが流れてしまうのです。

小さいゴミではなく、本当に悪意のある不法投棄なのです。大井出川を見たらプカプカと浮いて流れているので分かります。そのような実態を報告することしかできないし、頻繁になってしまうと思いますが、それでも来てもらえるのですか。

(総合支所市民福祉課長)

現場には出向きます。

(地元意見)

恐らくは大井出川に捨てられていると思います。集落がなく交通量の激しい所として考えると、河原町河原からとある場所までの区間に1か所捨てやすい所があるので、そこで捨てているのではないかと思っています。道路が近くを走っていて、大井出川が流れている所です。

(深澤市長)

全てに出向くことはなかなか難しいかもしれませんが、情報として教えていただければ、適切に対応していきたいと考えています。これは継続して取り組む必要がありますので、ぜひご協力いただきたいと思います。

(担当課補足：総合支所市民福祉課)

現場を確認しましたが、不法投棄のゴミは確認できませんでした。また、布袋部落長に確認したところ、その後「市の指定ごみ袋に入ったゴミ」は投棄されていないとのことでした。

今後も、不法投棄監視員や地元と連携を取りながら、不法投棄を未然に防止するよう取り組んでいきたいと思っています。

(地元意見)

先日、私の集落の方が金婚式に出席されました。自分達も金婚式に呼ばれるということで結構な準備をして行ったのだが、もらったのが祝詞だけで何だかもの足りなかったとのことでした。市町村合併前に河原町主催で開催していた時には、記念品も出ていたように思います。一部の意見かもしれませんが、検討してもらえないでしょうか。

(総合支所市民福祉課長)

祝詞とちょっとした記念品をお渡ししています。また、当日撮影した合同記念写真を後日お送りしています。

(地元意見)

食べて終わる記念品ではない方がよいと言われていました。

(総合支所市民福祉課長)

いただいたご意見を本課に伝えたいと思います。

(地元意見)

中心市街地の活性化として若桜街道等の商店街に力を入れているようですが、河原町はもともと商店街だったのに、鳥取自動車道が開通したために寂れてきていますので、新地域の商店街の活性化もお願いします。

(深澤市長)

我々は、中心街地の商店街だけではなく、「多極ネットワーク型コンパクトシティ」という、「市町村合併前の9つの市町村それぞれの中心にあったエリアを核として、まちづくりを考えていく」との基本的な考え方を持っています。合併前の旧町村の商店街等についても活性化を図っていくことは、大変重要な課題です。

河原町では企業進出等が続いています。皆様の格別なご理解とご協力のおかげで工業団地の整備が進み、非常に優良な企業に進出していただきました。また、河原町の商店街や商工会の皆さんともよく話しますが、皆さん非常に活気があります。将来のまちづくりも含め一緒になって取り組んでいこうという機運が高まっているように思いますので、今後さらに活性化が図られ、河原町の商店街の賑わいも創出されていくのではないかと期待しています。

(地元意見)

河原町誌には続編がありません。最後に作られたのは昭和の後半です。その後、高度成長期などもあったので、いろいろと変わったと思います。合併して鳥取市になってしまったので難しいかもしれませんが、子ども達に読みながら伝えていきたいので検討してほしいです。

(深澤市長)

空白部分があることは認識していませんでしたが、いろいろな資料等もまだ残っていると思いますし、旧鳥取市においても「明治編」、「大正編」と市史の整備を行って来ています。市全体のそういった歴史としてしっかり残していかなければならないと思いますので、大変時間のかかる取り組みですが、しっかり行っていきたいと思っています。

(担当課補足：総合支所地域振興課)

河原町誌は、昭和30年3月の町村合併後30周年事業として、昭和61年3月に発行されました。

その後、続編は発行されていませんが、平成16年の市町村合併による河原町閉町記念誌として「一ぬくもりとふれあいの半世紀—このまち、ただひとつの故郷河原町」が発行

され、昭和30年から平成16年10月までの河原町の歴史、データでみる統計資料、写真などが盛り込まれています。

河原町誌の続編の発行については、現状では困難とありますが、今後、市全体として取り組む場合には、資料提供等を行っていきたいと思います。

7 市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。大変限られた時間の中、非常に多岐にわたってご意見やご質問、ご提言をいただいたことに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

2年に一度という限られた機会ですが、地域づくり懇談会の他にも、総合支所や市役所にご意見等をお寄せいただければ大変ありがたいと思います。

いろいろなご提言やご質問をいただきました。なかなかすぐには解決できない難しい問題・課題もいくつかあったように思いますが、本日お聴きしたことをしっかり受け留め、今後も取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。

熱心にご議論をいただいたことに重ねて感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日はありがとうございました。